

目に見えるものと情報の世界とをつなぐ

～メディア探索技術による実世界情報検索～

どんな研究

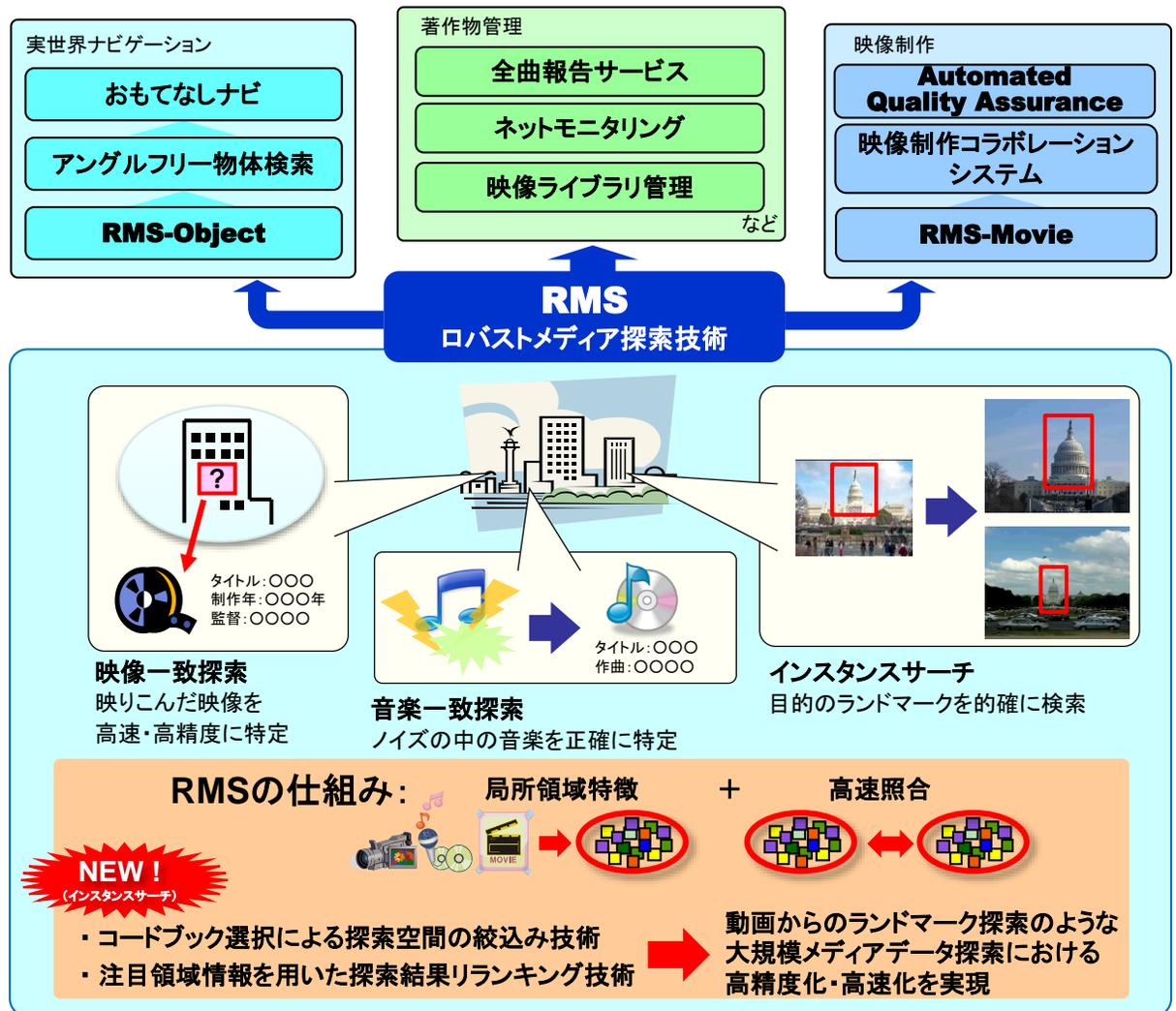
画像・映像・音の断片そのものに基づき、**膨大なメディア情報の中から目的とする情報を高速・高精度に探索する技術**の研究です。キーワードなどのメタデータに依存せず、カメラやマイクで捉えた対象の名前の特定やその関連情報の検索が可能となります。

どこが凄い

画質や音質が劣化していたり、編集や加工により信号が大きく変化していても、目的とする情報を正しく探索できる**頑健性（ロバスト性）**、膨大なメディア情報を実用的な速度で探索できる**高速性**、対象そのものを的確に特定できる**精度の高さ**を兼ね備えています。

目指す未来

目に見えるもの、耳に聞こえる音で、名前がわからない対象を特定する、実世界と情報空間をつなぐインタフェース技術として、また、日々増加するインターネット上の膨大な映像・音声データから必要な情報を瞬時に探し出す検索技術として、メディア社会の発展を支えます。



関連文献

- [1] 村田真哉, 永野秀尚, 向井良, 平松薫, 柏野邦夫, “映像中の特定物体を探索するインスタンスサーチ技術,” NTT技術ジャーナル, 2014.
- [2] M. Murata, H. Nagano, K. Hiramatsu, T. Kawanishi, K. Kashino, S. Satoh, “NTT Communication Science Laboratories at TRECVID2014 Instance Search Task,” *TRECVID2014 Workshop*, 2014.
- [3] M. Murata, H. Nagano, R. Mukai, K. Kashino, S. Satoh, “BM25 with exponential IDF for instance search,” *IEEE Trans. on Multimedia*, 2014.
- [4] 柏野邦夫, “膨大なメディアデータの探索と活用～ビッグメディア時代のボトルネック解消に向けて～,” NTT技術ジャーナル, 2014.

連絡先

平松薫 (Kaoru Hiramatsu) メディア情報研究部 メディア認識研究グループ
E-mail: hiramatsu.kaoru(at)lab.ntt.co.jp

